

2020年度 災害時外国人住民支援事業 実施報告

香川県国際交流協会では、地震などの大規模災害発生に備え、災害時に外国人住民を支援するボランティア育成のための研修や、外国人住民への防災啓発のための訓練などを香川県からの受託事業として実施しています。今年度は、9月27日(日)に災害時通訳ボランティア研修(中国語)を実施したほか、1月30日(土)に、宇多津町との共催で以下の訓練を実施しました。

1 外国人住民のための防災訓練

講義を通じて、宇多津町ではどんな災害が起こるか、避難所がどういうところかを学びました。また、起震車で地震を体験したほか、救命講習、搬送訓練、消火訓練など、人を助ける方法も学びました。

講義



体験



AED体験



搬送体験



地図で
危険地帯を看取り



地震体験



消火訓練



非常食いろいろ



避難所内のパーテーション



簡易トイレ

交流タイム

外国人参加者と日本人参加者が同じグループになって交流をしました。

グループ対抗で、災害に関する標識をあてるゲームにも挑戦! 上位グループには景品として災害に役立つグッズをプレゼント!



標識あてゲーム



非常持出袋に何を入れる?



3リターン

研修を終えて

地震などの災害が起こったとき、外国人住民を「災害弱者」にしないためには、日頃から地域の災害について知っておくことのほか、日本人住民とつながりを持ち、互いに助け合える関係を築いておくことが重要です。このことから、災害をテーマとした研修や訓練の中でも、同じ地域に住む外国人住民と日本人住民がお互いを知ることができる「交流」の時間を充実させていきたいと考えています。

日本人参加者より:

- ・交流タイムの活動を通じて、外国人住民の視点を知ることができてよかった。
- ・楽しく防災が学べるよいイベントだと思ってるので、継続してほしい。

外国人参加者より:

- ・今後何が起こるか分からないので、色々災害のことを学べてよかった。
- ・たくさんいろいろなことを教えてもらった。新しい友達もできた。

2 災害時外国人支援ボランティア研修

●講義「多言語支援センターの活動事例から災害時の外国人支援について考える」

過去の災害時の例から、災害多言語支援センターが果たす役割や、情報伝達のポイント等について学びました。

●避難所での避難生活ワークショップ

多様な人々が避難してくる避難所ではどのようなことに困るのか、またその解決にはどのような対応が必要になるのかを考えるワークショップを通じ、災害時における多様性に配慮した外国人住民の支援の在り方について話し合いました。



▲今回は講師と会場をオンラインでつなぎ実施